

バッハ盤を聴く(15)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(15)—

1. 始めに

前報(14)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回は LINN LP-12 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回からターンテーブルシートに Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のレーベルを聴いてみます。

ARCHIV 198-331

J.S.バッハ 心と口と行いと生活をもって BWV147

永遠よ、汝恐るべきことば BWV64

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団

ARCHIV 198-402

J.S.バッハ 神の時は、いと良き時なり BWV106

ああ、いかにはかなき、いかにむなしき BWV26

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

ARCHIV 盤は、ZANDEN のリストでは、TELDEC、R、第4時定数 Mid と DECCA、R、第4時定数 Mid の二つがあります。

上記2盤ともドイツの Hamburg での制作と記載があります。

ARCHIV 198-331 のカンタータは、TELDEC、R、第4時定数 Mid と DECCA、R、第4時定数 Mid の二つを聴きくらべてみましたが、後者は強調感があり、前者に落ち着きました。盤質はよくありませんが、以前の印象に比べて、合唱は力強く、ソリストの歌唱は伸びやかで、バロックオーボエやバロックヴァイオリンの質感も自然で、通奏低音も明瞭です。

ARCHIV 198-402 のカンタータは、これも TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきます。BWV106 の方は、合唱は荘重で、ブロックフレーテの質感もリアルです。

BWV26の方は、合唱は力強く、フルートやオーボエの質感もリアルです。ともにソリストの歌唱は伸びやかで、通奏低音も明瞭です。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1) と Magic Mat II の効果の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上